

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 2, No. 2

神奈川県立 生命の星・地球博物館

May, 1996



クロサギ（黒色型）

Egretta sacra (Gmelin)

沖縄県石垣島にて
中村一恵撮影

中村一恵（当館学芸員）

クロサギとは「黒いサギ」の意ですが、実際には、煤色をした中型（平均で全長58センチ）のサギの一種です。ニュージーランドからオーストラリア、東南アジアの海岸部にかけて生息する南方系のサギです。日本の本州はクロサギの分布の北限域に当たります。なかでも、房総半島や相模湾沿岸は太平洋側の北限の生息地となっています。そのため、もともと数の少ないサギで、県下では城

ケ島と真鶴岬が営巣地として知られているだけです。神奈川県レッドデータ生物調査報告書（1995年）では絶滅危惧種に判定されています。

クロサギと言っても、写真のような黒色型とシラスギのように全身が白い白色型とがあり、ややこしいのですが、白色型が多く見られるようになるのは九州以南の地域です。岩礁の海岸で餌を探し、とくにカニを好んで食べます。